

十七番 三井 経光でございます。

私から、観光戦略特別委員会の中間報告をいたします。

本委員会は、本年十月に設置され、本市の恵まれた観光資源を活用した観光戦略について調査研究を行っております。

設置以来、精力的に四回の委員会を開催する中で、観光に携わる民間の方々六人を二回にわたり参考人として招致し、本市観光の最新動向や課題などについて意見を聴取いたしました。

参考人からは、事業者の視点で何点かの課題を指摘いただくとともに、今後につながるヒントも頂きました。それらは、既に我々委員も認識している内容もありますが、「観光都市ながの」の実現に向け、より良い方策や方向性を見いだすことができるよう、改めて申し上げます。

一点目は、長野駅東口における観光バスなどの待機場所等の確保であります。

現在、長野駅東口では、観光客等の乗降のため、多くのバスが路上に待機している状況であり、円滑な交通に支障を来すおそれがあるだけでなく、観光客などの受入れという点においても課題があります。一方、上田駅温泉口には、大きな駐車場があることから、首都圏から新幹線を利用する団体客等は上田駅で降り、待機しているバスに乗りし、目的地に向かうケースが多いと聞いております。

このような状況の中、市では来年度、長野駅東口の（仮称）複合交通センター用地に観光バスや貸切バスなどの待機場及び乗降場を確保するための暫定整備を行います。ついでには、観光客をお迎えする本市の玄関口の利便性が一日も早く改善するよう、早急な整備を強く要望するものであります。また、整備が整うまでの措置として、観光客が安全に乗降できる場所の確保についても併せて要望するものであります。

二点目は、善光寺を訪れる観光客をできるだけ中央通り側から歩いて参拝してもらうための方策の検討であります。

市では来年度、セントラルスクウェアのステージ跡地を大型バスの駐車場として活用し、善光寺を訪れる観光客にまちなかを歩いてもらうための課題などを調査する実証実験を行います。そこで、距離の計測や利用者アンケートを行いながら課題の把握に努め、より多くの観光客が歩いてもらうための方策を見いだすよう要望するものであります。

三点目は、体験型修学旅行の受入体制の構築と積極的な受入れであります。

時代とともに修学旅行の形態も変化しており、今日、農業体験プランなどを取り入れた体験型の修学旅行を行う学校も増えてきております。幸い本市には、体験型となり得る素晴らしい素材が各地区に散在しておりますので、受入体制を構築し、積極的

な受入れを行うよう要望するものであります。

終わりになりますが、市内の地元資本のホテルの中には、長野オリンピック開催後の客室数の供給過多や新幹線開通に伴う日帰り出張の増加、そして景気低迷などの影響を受け、倒産・廃業に追い込まれたところもあります。また、しにせホテルにおいては経営者が変わるなど、どこも経営は厳しい状況であります。

市におかれては、この度策定した新一千二百万人観光交流推進プランの取組を通じ、観光入込客数や宿泊客数を増加させ、地域経済を大いに活性化するように切に望むものであります。

以上で報告を終わります。